

100キロマラソンじゃあ〜なる

5261

997-0826 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669

090-2986-7724 携帯

2009年12月18日

1984年9月15日第1号発行〜



夏から厳冬へ 12月14日午前4時半、またまたモーニングコール。急拠集合時刻が午前5時25分に変更された。ツアー主催者はホノルル空港が帰国者で混雑しているから早朝出発に変わったというが、我々のフライトは従前のまま午前9時30分のNW329便。ツアー主催者の都合で早朝出発組と同一日程にし、送迎バスの経費削減にいたるだろう。実に姑息はやり方である——お陰で我々はホテルでの朝食を食べ替った。一泊13,000円のホテル代は朝食付きの料金設定である。この4泊6日の旅行代は238,000円超。ツアー募集したシャイン社がホノルルにある旅行社に全て丸投げしただけ、私等はこのまやがしを今後ホノルルマラソンを走りたいと思っている皆さんにお知らせしなければなりません。このツアーには成田から一人も添乗者がいない。旅慣れした私共は何等不安は感じなかったが、初心者には困りもあつたろう。

さて、ホノルルはほぼ定刻にフライト。8時間程かけて12月15日午後1時45分成田に到着。私たちのチャーターしたバスで帰宅。シャイン丸投げツアー! 了

ホノルルマラソン 26マイル、385ヤードは いかがでしたか。

大変、大変、ご無沙汰しております。愛媛県西条市の高木です。

私事ですが、6月のにちなんおろちを走ってから、まったく大会には参加していません。

12月20日に西条市駅伝競走大会があり、それが久々の大会となります。

2ヶ月くらい前にメンバーの発表がありAチームのアンカーになっていました。

「監督、勝負あきらめたかあ。」と思いつつ、「まあいっか。」

フルマラソンは2月28日のそうじゃ吉備路マラソンにエントリーしています。

菊地様、これからはだんだんと寒くなってきますが、風邪などひかれぬ様、ご自愛下さい。

もう少しまめに連絡せんといかんなああと反省しつつ、12月11日

12月15日午後3時前、成田空港前からマイクロバスに乗車。降り立った空は晴れているものの、空気が物凄く冷たく感じる。気温差が30℃近いのだから当然といえば当然。

バスルートは常磐道を通り、福島県内に近い頃には完全な夜景。磐越道から東北道へ入る。車内は転寝するものも多いが、王子3名はゲームに興じ、眠る気配もない、若者は元気だ。かくいう自分も時差がらみで睡くもないので、周囲を観察。往路で不発だった「安達太良SA」で夕食を摂るため休憩。特大トカツカレーを頼み、胃袋に収めるが、不味い。どうも今回の旅では食べものに外れが多い。やはり質素ながらも我家の食事が一番という結論に至った。

再び東北道を北上し、福島から宮城へ。笹谷峠は雪模様。覚悟はしていたが、月山道は皮肉の雪、六十里越を過ぎれば雪の量も少くはっていくと思っていたが、どうやら逆に鶴岡の方が降雪量が増えている。

常夏の布哇から厳寒の鶴岡へ。帰宅は歓迎すべきものかも知れないが、予想外の雪には意気消沈してしまう。Carステーションイカフに降り立ち、雪でぬかるむ道を、バツグンを抱えて家路につく、寒すぎ!! 明日からの雪との格闘を覚悟しながら帰宅。熱い日本茶を呑み、湯につかると漸く睡気が襲ってきた。荷物整理もそこそこに就寝。

12月15日

明けて16日、予想通りの降雪。以後17日、18日と連続して除雪と排雪に明け暮れる。足は何ともないが、肩と腰が重労働に悲鳴をあげている。この時期、一気に降った雪の量が多さ(89cm)で鶴岡の名が全国放映された。

群馬の山本氏はじめ皆さんから安否を問う電話がいただきました。改めてお礼申し上げます。湿気を含んだ重い雪は疲れる。

100キロマラソンじゃあ〜なる

5262

997-0826 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669

090-2986-7724 携帯

2009年12月19日

1984年9月15日第1号発行〜

今日から厳寒走り込み大会、鉛色の重い雲が走り出す意欲を殺ぐ。先ず家の前の排雪に90分、樹木に重く絡みついた雪を払いのけるにも幾莫かの時間を割く。

山茶花や金樺の枝が雪に押しつぶされて可哀想なくぐらいたまわっている、おまけに雪庇になった屋根の雪が落下する危険、落ちついて珈琲など飲んでくれるかとは思いつつもコーヒを淹れ先ず一杯。

昼近くなり、鉛色の雲の彩度が微妙に変化してきたので様子見のため小真木原へと向かうも、深い雪に阻まれて難渋することになり、バートル足らずの距離を約10分もかけて走路に辿り着く。約50分除雪された走路をジョグして早々に帰還。走り込みの日ほど距離をこなすことができませんでした。 12月19日

日本のエリートランナーと世界のトップアスリートが争って参加する福岡国際マラソンに、鶴岡から毎年のように続けて出場しているKさんの完走記が届きました。

今年もK氏自身、あまりコンディションが宜しくない中での出走だった様ですが、数ある関門を潜り抜けて完走を果たし、苦闘のイベントを紹介致したいと思っております。

因みにK氏は今秋の鶴岡100キロマラソンの覇者です。

扱って、過日、ジャーナル紙上にてご案内致しました。100キロマラソン望年会の件ですが、先般参加者をお呼びいたしましたところ、今回も例年通りお名前程度の出席となりました。当日はザッパリラン大会ですが、マラソンでの参加はご遠慮願いたいと思っております。

12月6日 () 午前10時10分、地下鉄大濠公園駅に着き徒歩で平和台陸上競技場に向かう。頭上を巡回しているヘリコプターの音がいつもながら「今年も着たかあ」という緊張感を高める。大濠公園内の陸上競技場に行くためにはマラソンコースでもある「橋」を渡らないといけな。これがやや上りの傾斜がついていて、大したことはないのだがレースの終盤となるとかなり足に来る。「元気にこれを走りきりたいものだなあ」と思いながら、渡って更衣室に向かった。曇り空でやや肌寒い。「明日は晴れて暖かくなりますよ」と前日行ったスポーツ店のお姉さんが言っていたが、完全に外している。後半走る海沿いの風が冷たそうだ。

12時4分、スタート地点に整列、ゼッケン番号順に並べられる。私は、10月20日までは連続で1時間しか走れずこの大会を棄権しようと思っていた。それが、そこから回復し、最低限の練習ができ、今このスタート地点にいる。神様、仏様、女神様、みんなに感謝！「だいでろどご、チャンボンして感謝しているがなあ？」と思いつつも、感謝の気持ちでスタートラインに立った。

12時10分スタート、走り始めはいつも苦しい、息が上がる。「まず いい位置を！いい位置を！」と思いながら、1km通過、3分33秒。なかなかいい入り。大濠公園を1周しいよいよ福岡の町へ、公園からそれて大通りを左折すると本コース、大都会の風景が飛び込んでくる。

沿道の応援もすごい。10月に走らせていただいた藤島地区駅伝、私が走った「野田目一三和間3km」での、沿道平均応援にぎわいを、応援にぎやかさを表す単位「1ワイワイ」とすると、約3km地点の福岡の応援はいきなり5500〜6000ワイワイに相当する。

応援を背に5km地点通過、17分58秒。だいたいプラン通り、でも違うのはどこか苦しい。いつもならペースをつかみ、体も慣れて楽に走れるところだ。できるだけリラックスを心がけ、集団の中で力を使わないように走り続けた。最初の給水は、いつも素通りしている。給水を取るために、集団の中での位置を変え、水を取ったりはリズムが崩れてしまうのでそのまま行く。でも必ず優しい人がいる。自分が飲んだ後「どう？」と差し出してくれるのだ。「人の好意を無げに断るな」と死んだばあちゃんと言っていたので、飲みたくもないがありがたいと頂いた。ちょっと飲んで、隣の人に「どうぞ」と差し出すと、「いいや」と断られた。核家族育ちの人に違いないと思った。

そんなこんなで10km通過、この5km18分13秒。そして、8kmあたりからペースに慣れてきたのか、呼吸も楽になってきた。途中大きく左折して15kmに向かう。このコースは毎年追い風になり走りやすい。今年も例年通りで集団のペースもやや上がった。大したことはないペースアップだったが、少しずつ苦しくなってきた。黄色いシャツの人(だいたいさんと呼ぶ)をペースメーカーにしてついていった。

13km過ぎ辺りで沿道に中学生が並んでいて我々が通ったとき、「先生がんばれえ！」とボンボンやなんか書いていた紙を盛んに揺らしていた。私の左脇が「その先生」らしい。チャラチャラと手を振ってニヤついていた。その私は「全く、もっとキリッと反応しろよ！」と心の中でつぶやきながら、「もし自分だったら」、「あ、同じことをするか！いや、こんな自分だからもっと派手にリアクションするかも！」と思い、彼を温かく見守った。15km通過、この5km18分16秒。よく粘っている。

だいたいさんを含め7、8人の集団で進んでいく。「30kmまでは余裕を持って」と思っているものの、15kmの今がすでに決して楽ではない。しかしここで置いていかれるとズルズル下がっていき、完走も危くなる。中で走る年だ！」と開き直り「苦しみの向こう側」にある物を探ることにした。20km手前にはパンおじさんがいる。彼は近所迷惑も考えずフライパンをすりこぎで叩きまくって応援している。よりうるさい(すみません)。私は、だいたいさんから放れないように足を合わせながらついていく。木が続く道を進み20km通過、この5km18分18秒。タイムは満足だが体内の余裕計がエンブレムを感じる感じがした。

だいたいさん430番台、362番の自分より持ちタイムはよくない。しかしながら、今回力をつけてきたのだから軽快に走る。10km以降は給水ポイントで水を取っていき、集団で走っていると取った水人へ回す。一緒に走っているみんなは仲間、「いい記録が出るようにがんばろうぜ」というスタンスでお互いがい